「保健医療科学」 第67巻 第3号 予告

特集:これまでの環境リスクとこれからの環境リスク(仮題)

さまざまな環境リスク (仮題) 機田尚樹, 浅見真理, 他 これまでの公害問題とこれからの環境問題 (仮題) 秋葉澄伯地球的規模の環境リスクと予防原則 (予防策の原則)とは (仮題) 益永茂樹アスベストに関する公害問題とこれからの課題 (仮題) 寺園淳労働災害の課題から今後の環境リスクを考える (仮題) 上島通浩環境汚染と今後の環境リスクを考える (仮題) 岸玲子人口減少とインフラの課題から環境リスクを考える (仮題) 宇都正哲

編集後記

ICT/AIがブームである。国をあげての研究支援がなされ、民間企業でもデータサイエンティストは引く手あまたらしい。ICT/AIは産業構造(第四次産業革命?)のみならず、保健医療を含めて私たちの生活も大きく変化させる可能性をはらんでいる。何十年か後、私たちは今とは全く変わった世界にいるのかもしれないのだ。望むと望まざるとにかかわらず、そして取り残された私はこう言うのだ。「おじいちゃんの若い頃にはAIなんて無かったよ。これでもコンピューターは得意な方だったのだけどね」と。

一方で-これはICT/AIに限らないが-、あらゆるブームは良心的な人々を鼻白ませるに十分な軽薄さをともなう. 週刊誌の中吊り広告にAIが登場する時代なのだ. そしてSFチックな夢とも現実ともつかぬ未来の何事かとして表象される姿を目にするにつけ、夢無き時代に夢を仮託されることの苦しみと、一方でそれを利用しようとする人々の姿がはるか彼方に蜃気楼のように浮かび上がる. いや、望むところなのかもしれないが.

ICT/AIにまったく疎い私のイメージである。しかし、今号の特集「Evidence Based Public Health — ICT / AIを活用したこれからの保健医療—」を読むにつけ、私の乏しい想像力も若干の修正を余儀なくされた。ICT/AIなどと大文字で語るからいけないのだ。現場でICT/AIの活用に取り組んでいる方々は現場の問題を解決するために、ICT/AIを活用され、あるいはその発展を期待され日々取り組んでいる。そういうミクロな取り組みの積み重ねが、ブームを越えたICT/AIのなにがしかを生み出すのだろう。きっと。

人間にかかわる事象においては、笑わず、泣かず、憤らず、ただ理解せよ。(シモーヌ・ヴェイユ)

(保健医療経済評価研究センター 白岩健)